

## 学校施設の耐震化等に関する説明会

- 1 開催日時 平成22年6月3日(木)午後7時30分～午後8時28分
- 2 開催場所 京丹後市立吉原小学校 ランチルーム
- 3 出席者 中山市長、米田副市長、米田教育長、金久政策総括監、  
吉岡教育次長、三田参事、中川都市計画・建築住宅課長補佐、  
糸井教育総務課長、藤村学校教育課長、水野指導主事、  
味田教育総務課長補佐、服部学校教育課主任 計12名  
地元出席者 18名

報道 毎日新聞

### 4 内容

- (1) あいさつ(中山市長、米田教育長)
- (2) 資料説明 京丹後市立学校施設の耐震化方針(案)
- (3) 質疑応答

### 5 要旨

吉岡教育次長、京丹後市立学校施設の耐震化方針(案)説明

### 質疑応答

#### (出席者)

今後、10年来を見据えての長期的な学校の再配置という形で進めていくということをお聞きしたわけですが、昨年来、マスコミ等、また議会の説明会等におきまして、地域によっては再配置に対する反対の声がたくさん聞かれております。地域によっては、署名活動をされているところがありますが、その点について、どのようにされるつもりなのでしょうか。何十年に一回という大きな地震がいつ起こるか分かりません、ご承知のように昭和2年の丹後大震災におきましては、旧峰山町を中心として神戸大震災をはるかにしのぐ死者が出ました。その当時は、マスコミも活発でなかったために、報道等があまりされていなかったように思いますが、さぞ大変な事態であったろうと想像しております。建物の耐用年数と言いますか、個人的な見方であれば、当然25年とか鉄筋コンクリートであれば30年とかいうことでありますけれど、耐震化についてどのような基準でされるのかお尋ねしたい。最近、起きました神戸の大震災、150万都市であります。5千人余りの方が亡くなりました。震災では、「学校の倒壊等があったのか」、「なかったのか」、その点もお尋ねしたいと思います。10年来を見据えての長期計画という中で、国の補助金、市の財源等について十分確保できる見通しを見込んでおられると思いますが、市の財政が学校整備にどのように財政的な負担になっていくのか、そうした点についてもお尋ねしたいと思います。

#### (市長)

私からは再配置について、地域の皆さんが言われているような反対も含めて、貴重な意見をいただいています。案を示させていただいて、いろいろお声を署名と合わせていただ

いているところでありますが、我々としましてこういったお声を受けとめ、参考にさせていただきながら、再配置（案）につきまして精査をしているところであります。何れにしましても、7月に入りましてから議会の方に報告をさせていただいて、それ以降に改めて住民のみなさんに再配置（案）を、ご説明させていただきたいと思っております。そういう過程を通じまして、今後とも説明をしていきたいと思っているところであります。それから、耐震の技術的なことについては、専門家から説明してもらいますが、財政的な問題について説明がありましたように、特に耐震の中でも危険性があるものと言うか、三段階に分けて0.3とか0.7とかの数値で三段階に分けているのですが、Is値という評価数値の中で0.3未満のものについては、国の方も「平成23年度中に原則耐震化を図りなさい」という指導を流しておられ、これを受け止めながら平成23年度中には0.3未満のものについては、補強するのか再配置をするのかという形を通じて地震のそういった意味での危険性からは回避していきたいという方針であります。国の方も0.3未満のものについては助成に向けた方針が事実上、出つつあるというふうにも国の事務方からは聞いております。法律が今年で途切れて来年延長するかという話がありますが、それも行政的にはもちろん延長してほしいというお願いを国へ要望しております。財源の手当てをお願いしながら、本市としても、必要な部分についてはしっかりやっていきたいと思っております。

#### (参事)

今、ご質問のありました耐用年数についてご説明いたします。この耐震診断のいきさつを説明します。十勝沖地震、或いは宮城県沖地震が起きまして鉄筋コンクリートの建物に非常に大きな被害がありました。その結果、耐震設計法の基準が昭和56年に見直され、以前よりももっと強い耐力のある設計に変わりました。この吉原小学校のように昭和56年以前の基準で設計された建物については、現行の基準に間に合わせるように耐震補強をやりましょうということがございます。建物の耐力をどのように評価するかということになりますと、先ほどからご説明しておりますIs値という数値で建物が現行の建築基準法と同等の体力があるどうかを判定しています。ちなみにIs値0.6という数値が出れば現行の基準に基づいた耐力と同等の耐力があると評価されております。文科省の指示で、特にこのIs値が0.6の半分0.3未満については緊急に耐震補強しましょうということです。したがって、この耐震補強をして何年耐用年限が延びるということと直接つながりのあるものではありません。現行の基準法を満足していれば震度6強程度の地震があっても建物が崩壊しない、人命は守りますよという基準の建物に補強するということです。耐用年限のことだけを言いますと、地震がいつ来るかという話になりますが、例えば丹後地方で言いますと郷村断層という断層がございます、それが今後地震を発生させる可能性のある断層なのですが、現状の調査から、この断層に起因する地震発生の確率は300年間で0パーセントと言われております。その地震が明日来るとか来ないとかは、はっきり言い切れるわけではございませんが、今言われています東海地震だとか南海地震等の確立としては非常に少ないと、言われています。

#### (教育長)

最初に言われました、「署名の反対の意見が多いではないか」ということではありますが、

確かに反対の署名を地域の 80 パーセントあると言われたものをいただいております。今まで開催しました説明会の中で、「伝統のある学校をなくする」、「地域が寂れる」、「元気がなくなる」とか、「文化の拠点である」、「少人数の教育のどこが悪いか」、「子どもたちもよく知り合っている」ではないかと、いう意見を聞きました。一方、今年の生徒の状況を見てみますと、一年生、この吉原小学校は 26 名でした。かなり多い方ですが、10 名を割る学校というのが 11 校あります。こういう少人数のところでは、男女の比率が悪く、どちらかに偏っている場合があります、その中の保護者の話ですが、「6 年間辛抱できないと早く統合してほしい」という声もありました。実際に、「うちはもう転居する」と、そして「人数の多い学校に移る」という保護者の方が現にありました。また、市の PTA 協議会がありました時に、「どんな影の声でもいい」し、「一部の方が集まられて話された声でもいい」し、聞かせてくださいと、ご意見には真摯に耳を傾けながらみなさんの発言をきちっと踏まえて考えていきたいということをお願いして、話を聞かせていただきました。その中では、言われるように地域から学校がなくなるという反対の声があったことは事実であります。

#### (出席者)

全体の意見を言わないといけないと思いますが、特に市長さんの言われております 10 年を見越しての長期計画という中で、長岡小学校、五箇小学校はどうなるのか心配であります。今、言われましたが、耐震性の中で十分な耐震補強ができれば、何年もつのであろうか、それが一点と、それから特に峰山町で言いますが、全体を見られての峰山小学校と丹波小学校の問題が、大きな問題になってくると思います。それについてはどのようにお考えなのか、その点を確認しておきたいと思っております。

#### (教育長)

その辺につきましては、当初に計画を立てました時には、国の補助が悪く、丹後一円の学校を触っていくというのには、財政面でも大変であり、比較的丈夫な学校に移る絵を描いたということでもあります。大きな学校が、小さな学校に移る絵も描いておりました。先ほど市長が申しあげましたように、四川省であった中国の地震の関係による補助制度の変化、文部科学省の通知等で耐震検査をしてそれから考え直すということになったわけがあります。今日お示ししました結果に基づき、頭をひねっていくということになります。今、どこがどこになるかということについてはお答えできない状況であるというふうに捉えていただきたいと思います。

#### (補佐)

体育館の Is 値の数値ですが、簡単な模型で申し訳ないですが、これを体育館とさせていただきます。(箱を示し)これがちょうど体育館と同じ形ですね。屋根を取りますと、大きな体育館のスペースがあるということで、Is 値が 0.05 という数値はこの部分(妻面)で出ております。この部分の数値が低いですねと、それからもう一つ、こっちの方(梁間方向)も少し低い数値が出ております。こういう缶は特にそうですけど、ここ(外力に対して支える壁がある面)を押しても変形しにくいですね、こういうところ(支える壁のない面)だったら少しポコポコになったりします。この学校の場合はここが少し弱いというよ

うな数値と 부탁드립니다。それに屋根が乗っているわけですが、今の基準で算定していきますと、ここの強さが少し低いということになっておりまして、これをどうするかと言いますと、屋根の下に補強を入れて行うということです。補強を入れると、押しても頑丈になります。これで今の基準に合うようになります。ですから Is 値については、ここの部分の数値が 0.05 であって、耐震診断の結果表には一番数値の小さい数値を挙げています。あっちもこっちもの部分が Is 値 0.05 とうことではありません。続きまして、校舎の方も補強の方法を少し説明させていただきます。鉄筋コンクリートの骨組みは、この会場もそうになっていますが、左右両方に柱があって梁が上と下にあり、腰壁がついておりまして、窓があります。耐力の弱い所に筋交いを入れて補強を行います。腰壁を一回撤去しまして、鉄骨で組んだ筋交いここの骨組みの中にはめ込みます。はめ込むと筋交いですので強くなります。これを一階に何箇所か二階に何箇所か入れ、建物全体が強くなるように算定しています。鉄骨の筋交いで補強した後、腰壁を作りサッシを入れというふうな方法で補強していき、この補強が終わると現行の建築基準法と同等の強さになるということでございます。

**(出席者)**

一点だけ質問させてください。保育所はどうなりますか。

**(教育次長)**

今回は、学校の耐震化の件ということで、耐震化の説明を学校についてさせてもらっています。保育所の方も同じように耐震診断をやっています。近いうちに担当の方から説明をさせていただく機会があるのではないかと思います。

**(出席者)**

行政の方々、大変ご苦勞様であります。再配置を踏まえて、この学校がどういう学校になっていくのかということ考えた場合、親御さんたちは何を考えていけばいいのかと思います。今日の説明会には、区役員、区長さんが多いようですが、一般の方々の参加が少ないのが残念であります。再配置計画の以前に、市の方で防災の避難場所として、公民館或いは公共の建物を指定されました。公共施設が避難場所として、耐震化されたところはいいのですが、されない場合は避難場所と指定されるのでしょうか。

**(教育次長)**

体育館が避難場所になっているところにつきましては、この耐震結果で危険だと判断されるような場合は、耐震補強して避難所として使われるように取り組んでいきたいと考えています。集会所や地域の公民館とかいうところについての細かいところまで、私どもでは分かりかねますので、改めて市の防災担当の方へ確認していただけたらと思います。

**(出席者)**

数値を見ますと、吉原小学校の体育館が一番危険だというように見えたのですが、ということはこの京丹後市で最初に工事するということですか。

**(参事)**

今、ご質問のありました、この数値だけを見ると吉原小学校の体育館が一番数値が小さいので一番危険ではないかと考えられているのかと思いますが、先ほど説明させていただ

いたとおり、この Is 値は体育館の部分・部分で計算し、この部分が 0.05 この部分が 1.6 と Is 値をいくつかの部分に分けて算出しております。その中の一番低い Is 値が 0.05 ということで、この体育館すべての部分が 0.05 だということではありません。ちなみに同じ体育館ですが、違う柱の数値は 2.42 や 1.55 など、0.7 をクリアする数値もあります。この Is 値だけで建物の強度の順番付けをする分けではありません。

**(出席者)**

最初に工事されるのは、「どこでしょうか」と聞いているのです。

**(教育次長)**

その点は、こちらの方からお答えさせていただきます。今回の、耐震診断の結果につきましては、いろいろと説明させていただいて、一部出てきていないものを除き、概ね、揃ったということで、今回、説明に寄せてもらっているということでもあります。先ほどありました Is 値が 0.05 と 0.10 とあった場合、どちらを先にするかということについては、現段階では特に決めておりません。各地域を回らせていただいて、ご理解をいただいた上で、できましたら早急に工事をさせていただきたいと思っております。また、実際の設計等を細かくやっていかなければなりませんので、工事については来年になるかも分かりませんが、どちらもやらせていただくということで吉原小学校もその中に入るような形になると思います。誤解があるかも知れませんが、Is 値 0.3 未満はそういうことではありますが、0.3 以上 0.7 未満までについては学校再配置とかいろんなことが絡んできますので、来年ということではなく、今後の検討という形になります。ただ、耐震補強についてはできるだけ平成 26 年度までを目標にしていますのでよろしくお願ひしたいと思っております。

**(閉会 20 時 28 分)**